

正名古屋敷

六ッ美村誌には正名古屋敷は2種類記載されている。

- ・その1は、「渡邊忠左衛門重綱之に居り、小田原・関ヶ原・大阪の陣の従って毎戦功ありき。」
- ・その2は、「大久保荒之助、平井甚右衛門」

その1については、渡邊重綱と思われるが、その場所については特定できない。参考までに、渡邊守綱の占部城は國正である。

[渡邊重綱 (1574~1648)]

渡邊重綱（わたなべ しげつな）は、安土桃山時代から江戸時代前期にかけての武将。尾張藩重臣、渡邊半蔵家第2当主。父は渡邊守綱。母は平岩親重の娘（平岩主計頭親吉妹）。正室は紀伊和歌山藩重臣水野左近大夫正重の娘。子は渡邊小半蔵勝綱、渡邊忠蔵仲綱、旗本渡邊忠七郎忠綱、尾張藩家老渡邊飛騨守治綱、初代武蔵野本藩藩主渡邊丹後守吉綱、江戸南町奉行及び大目付を務めた旗本渡邊大隅守綱貞（三綱）、尾張藩重臣渡邊藤蔵長綱、石川伊賀守正光妻、松平三左衛門妻、稲葉右近正通妻。通称半蔵、忠右衛門（渡邊忠右衛門重綱）。

1574（天正2）年三河国に生まれる。1588（天正16）年に徳川家康に出仕、小田原征伐、関ヶ原の戦いに出陣。1610（慶長15）年父の守綱と共に家康の9男義直に付属せられ、大坂冬夏両陣では先鋒を務めた。

その2については、大久保忠當と思われるが、その場所については特定できない。

[大久保忠當（当） (1591~1624)]

大久保忠當（おおくぼ ただまさ）は、江戸時代初期の旗本。大久保忠直の子。母は坂部次郎左衛門某の娘。通称は荒之助。兄に大久保忠成。弟に大久保忠景、大久保忠興。姉妹に佐原七左衛門妻、小野高盛妻、大谷末久妻、高尾嘉文妻、松田定平妻。室は久世広宣の娘。子に大久保忠辰、大久保忠陰（甚兵衛）、正木康可（正木康長養子）。

1605（慶長10）年、徳川秀忠に仕え、書院番となる。大坂の役両陣に従軍した。1619（元和5）年駿河国田中城城代の任に父の忠直が就いたが、老齢であったために忠當が父に代わって赴く。1622（元和8）年暮れに父が没し、翌年に兄の忠成が没したために忠當が家督を相続する。父の城代の役料500石は還付して残1500石を相続し、同年将軍の上洛に随行している。1624（寛永元）年34歳で没する。

[大久保忠直 (1551~1623)]

大久保忠俊の6男。徳川家康につかえ、姉川の戦いで戦功をたて、荒之助の名をあたえられた。小牧・長久手（ながくて）の戦い、大坂の陣などに従軍。1619（元和（げんな）5）年駿河田中城代となった。1622（元和8）年12月26日死去。72歳。三河（愛知県）出身。通称は甚左衛門。

本項は以下の資料から引用した。

[六ッ美村誌]

編者： 六ッ美村是調査会
発行： 六ッ美村是調査会
発行日：1926（大正15）年12月1日
発行所：日新堂書店
印刷所：活版印刷所